

## 学 則

1 事業者の名称及び所在地	医療法人光陽会 〒235-0016 神奈川県横浜市磯子区磯子 2-20-45
2 研修事業の名称	医療法人光陽会介護職員初任者研修通学講座
3 研修課程及び形式	介護職員初任者研修課程 ( <u>通学</u> ・ 通信 )
4 開講の目的	この講習は、広範多岐にわたる福祉のニーズに対応した介護サービスを提供するために必要な知識、技能を有する介護職員を養成することを目的とする。
5 研修責任者及び研修コーディネーターの氏名 研修担当部署 研修担当者及び連絡先	研修責任者 小川英昭 研修コーディネーター 三浦純子 研修担当部署 医療法人光陽会医療介護福祉研修センター 研修担当者 小川英昭 事務所：神奈川県横浜市泉区和泉町 7315-7 電話番号：045-752-6988
6 受講対象者(受講資格)及び定員	受講対象者は、法人職員及び一般公募とし、年齢 16 歳以上の者とする。受講定員は毎回 18 名までとする。
7 募集方法 (募集開始時期・受講決定方法を含む) 受講手続及び本人確認方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般公募・内部公募を行う。</li> <li>原則開講日の 2 週間前より募集開始し、自社ホームページ・FAX にて掲載、連絡をする。</li> <li>・受講希望者に受講案内 (学則含む) と申込書を送付</li> <li>・申込書の提出 (郵送可) により手続き</li> <li>応募者多数の場合は申込書の先着順</li> <li>・本人確認は研修初日に公的証明書等を原本確認して行う。</li> </ul>
8 受講料、テキスト代 その他必要な費用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般 65,000円 (内訳) ・受講料 59,600円 ・テキスト代 5,400円</li> <li>・法人職員 50,000円 (内訳) ・受講料 44,600円 ・テキスト代 5,400円</li> </ul>
9 研修カリキュラム	別添様式3のとおり
10 通信形式の場合 その実施方法 ・添削指導及び面接指導の実施方法 ・評価方法及び認定基準 ・自宅学習中の質疑等への対応方法	なし

<p>11 研修会場 (名称及び所在地)</p>	<p>① 磯子中央病院・5階会議室 (神奈川県横浜市磯子区磯子 2-20-45) ② あっとほーむ鎌倉山・地域交流スペース・浴室 (神奈川県鎌倉市笛田 5 丁目 2-15)</p>
<p>12 使用テキスト (副教材も含む)</p>	<p>中央法規『介護職員初任者研修テキスト全 2 巻 DVD 付』</p>
<p>13 研修修了の認定方法 (習得度評価方法含む)</p>	<p>修了認定は、学則に記載された条項に違反せず、カリキュラムを全て履修し、次の 1 及び 2 の評価を行った上、修了認定会議において基準に達したと認められた者に対して行う。</p> <p>1. 全カリキュラム終了後、60 分の筆記試験を行う。認定基準は、次のとおり、理解度の高い順に A, B, C, D の 4 区分で評価した上で、C 以上の評価の受講者を、評価基準を満たしたものとして認定する。評価基準に達しない場合には、必要に応じて補講等を行い、基準に達するまで再評価を行う。 認定基準 (100 点を満点とする) A=90 点以上、B=80～89 点、C=70～79 点、D=70 点未満 修了評価の合格判定で「不合格」となったときは再試験を実施する。 不合格者に対しては、翌日以降に日程を調整し再試験を実施する。 (試験料は無料)</p> <p>2. 「こころとからだのしくみと生活支援技術」の次の項目については、各演習時間内で技術習得度の評価を行う。 チェックリストにより A～D の 4 区分で各項目評価を行い、A 及び B の者を一定レベルに達している者とする。 ⑥整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑦移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑧食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑨入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑩排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑪睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑭総合生活支援技術演習</p> <p>(評価区分) A：基本的な介護(介助)が的確にできる B：基本的な介護(介助)が概ねできる C：技術が不十分 D：全くできない</p> <p>未達の取り扱い：一定レベル未達の場合は、講義時間内において繰り返し到達するまで行う。</p>
<p>14 欠席者の取り扱い(遅刻・早退の扱い含む) 補講の取り扱い (実施方法及び費用等)</p>	<p>理由の如何にかかわらず、10 分以上の遅刻・早退は欠席とする。 研修の一部を欠席した者で、やむを得ない事情があると認められる者については、補講を行う。 補講の実施場所は研修実施場所と同一とし、担当講師との日程調整後、</p>

	改めて補講日を設定し同じ授業を振替受講することにより行う。 なお、補講については1科目当たり3,000円の別料金を徴収するものとする。
15 科目免除の取り扱いとその手続き方法	実習先と認められている施設・事業所において過去3年間に1年以上（通算180日以上）の実務経験がある者について、実習を免除する。 受講料減額なし。 実習免除は申込時に申告し手続きを行う。
16 解約条件及び返金の有無	受講者からのキャンセル 開講日の3日前までは無料 開講後の退校については如何なる理由についても返金しない。  当校からのキャンセル 応募者が3名に満たなかった場合、開講中止し受講料を返金する。 返金対応は個別に当校より連絡し、指定口座へ返金する。 受講態度不良等による退校処分の場合については返金しない。
17 情報開示の方法 (ホームページアドレス等)	当法人ホームページ上にて開示 <a href="http://hmcg.jp/">http://hmcg.jp/</a>  ①法人情報：法人格・法人名称・住所・代表者名・研修事業担当者  ②研修機関情報：事業所名称・住所・理念・学則・研修施設  ③研修の概要：対象・研修スケジュール・定員と指導者数・研修受講までの流れ・費用・留意事項、特徴、受講生へのメッセージ  ④課程編成責任者：課程編成責任者名  ⑤研修カリキュラム：科目別シラバス・特徴・科目別担当教官名  ⑥修了評価：修了評価の方法、評価者、再履修等の基準  ⑦実習施設：実習施設一覧・協力実習機関の介護保険事業の概要・実習プログラム内容、演習担当者名、指導体制、特色・協力実習機関における延べ人数。  ⑧講師情報：講師情報一覧  ⑨実績情報：過去の研修実施回数・過去の研修延べ参加人数  ⑩連絡先等：申し込み、資料請求先・苦情対応者
18 受講者の個人情報の取り扱い	受講者の個人情報についてはこの研修以外では使用せず、受講者よりお預かりした個人情報を適切に管理し、受講生の依頼がある場合を除き、個人情報を第三者に開示しない。  なお、修了者名簿は介護保険法施行令第3条第2項第2号イの規定により県に提出する。

19 修了証明書を亡失・ 毀損した場合の取扱い	亡失・毀損した場合、受講者本人の申請により再交付する。 その際、再交付にあたり事務手数料 1,000 円を受講者負担とする。
20 その他研修実施に係る 留意事項	<p>妊娠中の方は原則として、車いすなどのを使用した技術演習を行うため、母体保護の観点から受講できない。この場合の途中退校に係る返金については、母子手帳の写しを学校側に提出後、受講料を返金する。</p> <p><b>退校処分の取り扱いについて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 悪質な受講態度（受講中の私語や、他受講生や当法人職員、講師への嫌がらせとみられる言動や行動等、介護・福祉の従事者を指す受講生として、社会人としてのモラルの欠如とみられる言動や行動等）や学則を著しく違反し更生が見られない場合は、該当者には退校処分とする。この場合の受講料の取り扱い等に関しては下記のとおりとする。</li> <li>・ 授業態度不良等による退校処分に関しては、返金を行わない。</li> <li>・ この場合に当法人が何らかの被害を被った場合には、被害の大小にかかわらず被害総額を全額実費にて本人が賠償する。</li> </ul>

## 研修会場一覧

事業者名 医療法人光陽会

研修事業の名称 医療法人光陽会介護職員初任者研修通学講座

	会場名 所在地	定員	(演習会場が異なる場合) 会場名 所在地	定員
		面積(m <sup>2</sup> )		面積(m <sup>2</sup> )
		借上げ		借上げ
1	磯子中央病院 5階会議室	18人		
	横浜市磯子区磯子 2-20-45	53.75 m <sup>2</sup>		
2	あっとほーむ鎌倉山 地域交流スペース	18人	あっとほーむ鎌倉山浴室	18人
	鎌倉市笛田5丁目2-15	31.20 m <sup>2</sup>	鎌倉市笛田5丁目2-15	
3				
4				
5				
6				

※「定員」欄は、40人を上限に当該会場で可能な定員数(1人当たり1.65m<sup>2</sup>以上)を記入する。

※自施設でなく借上げの会場の場合は「借上げ」欄に○を記入する。なおこの会場を使用する研修の開講届には、会場使用承諾書等の写しの添付が必要となる。

介護職員初任者研修カリキュラム

事業者 医療法人光陽会

研修事業の名称 医療法人光陽会介護職員初任者研修通学講座

1 職務の理解（6時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
① 多様なサービスの理解	2時間	<p>[講義内容]</p> <p>(ア)介護保険サービス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・居宅介護サービス</li> <li>・施設介護サービス</li> </ul> <p>(イ)介護保険外サービス</p>
② 介護職の仕事内容や働く現場の理解	4時間	<p>[講義内容]</p> <p>(ウ) 介護職の仕事内容や働く現場の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・居宅、施設の多様な働く場所におけるそれぞれの仕事内容</li> <li>・居宅・施設の実際のサービス提供現場の具体的イメージ (視聴覚教材の活用、現場職員の体験談)</li> <li>・ケアプランの位置づけに始まるサービスの提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ・多職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携</li> </ul>
		<p>(エ) 施設見学</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護老人保健施設にて実際の職場を見学します。（2時間）</li> </ul> <p>(見学順序)</p> <p>1. 事務所見学   ・介護保険請求                   ・ケアマネジャー                   ・支援相談員</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>2. デイケア見学   ・レクレーション、送迎等</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>3. リハビリ見学   ・理学療法士等のリハビリ見学</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>4. 入所フロア    ・介護提供の見学                   ・医療提供の見学</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>5. 質疑応答（担当介護主任）</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>6. 現地解散</p>
合計	6時間	

2 介護における尊厳の保持・自立支援（9時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
① 人権と尊厳を支える介護	4.5 時間	<p>[講義内容]</p> <p>(ア) 人権と尊厳の保持</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人としての尊重</li> <li>・尊厳のある暮らし</li> <li>・アドボカシー</li> <li>・エンパワメントの視点</li> <li>・「役割」の実感</li> <li>・利用者のプライバシーの保護</li> </ul> <p>(イ) I C F</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護分野における I C F</li> </ul> <p>(ウ) Q O L</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Q O Lの考え方</li> <li>・生活の質</li> </ul> <p>(エ) ノーマライゼーション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ノーマライゼーションの考え方</li> </ul> <p>(オ) 虐待防止・身体拘束禁止</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身体拘束禁止</li> <li>・高齢者虐待防止法</li> <li>・高齢者の養護者支援</li> </ul> <p>(カ) 個人の権利を守る制度の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報保護法</li> <li>・成年後見制度</li> <li>・日常生活自立支援事業</li> </ul> <p>[演習内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・尊厳を支えることとは？をテーマにグループワークを行う。</li> </ul>
② 自立に向けた介護	4.5 時間	<p>[講義内容]</p> <p>(キ) 自立支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自立・自律支援</li> <li>・残存能力の活用</li> <li>・動機と欲求</li> <li>・意欲を高める支援</li> <li>・個別性/個別ケア</li> <li>・重度化防止</li> </ul> <p>(ク) 介護予防</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護予防の考え方</li> </ul>
合計	9 時間	

3 介護の基本（6時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
① 介護職の役割、専門性と多職種との連携	2時間	<p>[講義内容]</p> <p>(ア) 介護環境の特徴の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問介護と施設介護サービスの違い</li> <li>・地域包括ケアの方向性</li> </ul> <p>(イ) 介護の専門性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重度化防止・遅延化の視点</li> <li>・利用者主体の支援姿勢</li> <li>・自立した生活を支えるための援助</li> <li>・根拠のある介護 ・チームケアの重要性</li> <li>・事業所内のチーム ・多職種から成るチーム</li> </ul> <p>(ウ) 介護に関わる職種</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・異なる専門性を持つ多職種の理解</li> <li>・介護支援専門員 ・サービス提供責任者</li> <li>・看護師等とチームとなり利用者を支える意味</li> <li>・互いの専門職能力を活用した効果的なサービスの提供</li> <li>・チームケアにおける役割分担</li> </ul>
② 介護職の職業倫理	1時間	<p>[講義内容]</p> <p>(エ) 職業倫理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門職における倫理の意義</li> <li>・介護の倫理（介護福祉士の倫理と介護福祉士制度等）</li> <li>・介護職としての社会的責任・プライバシーの保護/尊重</li> </ul>
③ 介護における安全の確保とリスクマネジメント	2時間	<p>[講義内容]</p> <p>(オ) 介護における安全の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事故に結びつく要因を探り対応していく技術</li> <li>・リスクとハザード</li> </ul> <p>(カ) 事故予防、安全対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リスクマネジメント ・分析の手法と視点</li> <li>・事故に至った経緯の報告（家族への報告、市町村への報告）</li> <li>・情報の共有</li> </ul> <p>(キ) 感染対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染の原因と経路（感染源の排除、感染経路の遮断）</li> <li>・「感染」に対する正しい知識</li> </ul>
④ 介護職の安全	1時間	<p>[講義内容]</p> <p>(ク) 介護職の心身の健康管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護職の健康管理が介護の質に影響</li> <li>・ストレスマネジメント・腰痛の予防に関する知識</li> <li>・手洗い・うがいの励行</li> <li>・感染症対策</li> </ul> <p>[演習内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染予防対策が実践できるよう演習を行う。</li> </ul> <p>(手洗い・グローブ・ガウンの着脱)</p>
合計	6時間	

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携（9時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
① 介護保険制度	3時間	<p>(ア) 介護保険制度創設の背景及び目的、動向</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアマネジメント</li> <li>・予防重視型システムへの転換</li> <li>・地域包括支援センターの設置</li> <li>・地域包括ケアシステムの推進</li> </ul> <p>(イ) 仕組みの基礎的理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保険制度としての基本的仕組み</li> <li>・介護給付と種類 ・介護予防給付 ・要介護認定の手順</li> </ul> <p>(ウ) 制度を支える財源、組織・団体の機能と役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・財政負担</li> <li>・指定介護サービス事業者の指定</li> </ul> <p>[演習内容] グループワークを行い実際の介護保険制度の申請をシュミレーションし理解を深める。</p>
② 医療との連携とリハビリテーション	1時間	<p>(エ) 医行為と介護・訪問看護</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問看護</li> <li>・医行為の範囲</li> </ul>
	1時間	<p>(オ) リハビリテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリテーションの意味と理念</li> <li>・リハビリテーションの分類</li> <li>・リハビリテーションの過程</li> </ul>
	1時間	<p>(カ) 施設における看護と介護の役割・連携</p>
③ 障害者自立支援制度およびその他制度	3時間	<p>(キ) 障害者福祉制度の理念</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害の概念</li> <li>・ICF（国際生活機能分類）</li> </ul> <p>(ク) 障害者自立支援制度の仕組みの基礎的理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護給付・訓練等給付の申請から支給決定まで</li> </ul> <p>(ケ) 個人の権利を守る制度の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報保護法</li> <li>・成年後見制度</li> <li>・日常生活自立支援事業</li> </ul>
合計	9時間	

5 介護におけるコミュニケーション技術（6時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
① 介護におけるコミュニケーション	3時間	<p>(ア) 介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮</li> <li>傾聴 ・ 共感の応答</li> </ul> <p>(イ) コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>言語的コミュニケーションの特徴</li> <li>非言語的コミュニケーションの特徴</li> </ul> <p>(ウ) 利用者・家族とのコミュニケーションの実際</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>利用者の思いを把握する ・ 意欲低下の要因を考える</li> <li>利用者の感情に共感する ・ 家族の心理的理解</li> <li>家族へのいたわりと励まし・信頼関係の形成</li> <li>自分の価値観で家族の意向を判断し非難することがないようにする</li> <li>アセスメントの手法とニーズとデマンドの違い</li> </ul> <p>(エ) 利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>視力、聴力の障害に応じたコミュニケーション技術</li> <li>失語症に応じたコミュニケーション技術</li> <li>講音障害に応じたコミュニケーション技術</li> <li>認知症に応じたコミュニケーション技術</li> </ul> <p>[演習内容]</p> <p>グループワークを行い言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションの活用を学ぶ。</p>
② 介護におけるチームのコミュニケーション	3時間	<p>(オ) 記録における情報の共有化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>介護における記録の意義・目的、利用者の状態を踏まえた観察と記録</li> <li>介護に関する記録の種類</li> <li>個別援助計画書（訪問・通所・入所、福祉用具貸与等）</li> <li>ヒヤリハット報告書</li> <li>5W 1 H</li> </ul> <p>(カ) 報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>報告の留意点</li> <li>連絡の留意点</li> <li>相談の留意点</li> </ul> <p>(キ) コミュニケーションを促す環境</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>会議</li> <li>情報共有の場</li> <li>役割の認識の場</li> <li>(利用者とは頻回に接触する介護者に求められる観察眼)</li> <li>ケアカンファレンスの重要性</li> </ul> <p>[演習内容] チームコミュニケーションに必要な報告・連絡・相談を理解し具体的な事故事例を基に記録作成、報告のグループワークを行う。</p>
合計	6時間	

6 老化の理解（6時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
① 老化に伴うこころとからだの変化と日常	3時間	<p>(ア) 老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 防衛反応（反射）の変化、</li> <li>・ 喪失体験</li> </ul> <p>(イ) 老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身体的機能の変化と日常生活への影響</li> <li>・ 咀嚼機能の変化</li> <li>・ 筋、骨、関節の変化</li> <li>・ 体温維持機能の変化</li> <li>・ 精神的機能の変化と日常生活への影響</li> </ul> <p>[演習内容]</p> <p>精神的機能の変化、身体的機能の変化を理解することの必要性についてグループワークを行う。</p>
② 高齢者と健康	3時間	<p>(ウ) 高齢者の疾病と生活上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 骨折</li> <li>・ 筋力の低下と動き・姿勢の変化</li> <li>・ 関節痛</li> </ul> <p>(エ) 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 循環器障害（脳梗塞、脳出血、虚血性心疾患）</li> <li>・ 循環器障害の危険因子と対策</li> <li>・ 老化期うつ病症状（強い不安感、焦燥感を背景に、「訴え」の多さが前面に出る、うつ病性仮性認知症）</li> <li>・ 誤嚥性肺炎</li> <li>・ 症状の小さな変化に気づく視点</li> <li>・ 高齢者は感染症かかりやすい</li> </ul>
合計	6時間	

7 認知症の理解(6時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
① 認知症を取り巻く状況	1時間	(ア) 認知症ケアの理念 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ パーソンセンタードケア</li> <li>・ 認知症ケアの視点 (できることに着目)</li> </ul>
② 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2時間	(イ) 認知症の原因疾患、原因疾患別ケアのポイント、健康管理  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知症の定義</li> <li>・ もの忘れとの違い</li> <li>・ せん妄の症状</li> <li>・ 健康管理(脱水・便秘・低栄養・低運動防止、口腔ケア)</li> <li>・ 治療</li> <li>・ 薬物療法</li> <li>・ 認知症に使用される薬</li> </ul> <p>[演習内容]  通常のもの忘れと、認知症による記憶障害の違いについてグループワークを行う。</p>
③ 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	1時間	(ウ) 認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知症の中核症状</li> <li>・ 不適切なケア</li> <li>・ 生活環境で改善</li> <li>・ 認知症の行動、心理症状 (B P S D)</li> <li>・ 相手の世界に合わせる</li> <li>・ 失敗しないような状況をつくる</li> </ul> (エ) 認知症の利用者への対応 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本人の気持ちを推察する ・プライドを傷つけない</li> <li>・ すべての援助行為がコミュニケーションであると考えて</li> <li>・ 相手の様子・表情・視線・姿勢などから気持ちを洞察する</li> <li>・ 認知症に進行に合わせたケア</li> </ul>
④ 家族への支援	2時間	(オ) 認知症の受容過程での援助 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護負担の軽減 (レスパイトケア)</li> <li>・ 社会サービスの活用</li> </ul>
合計	6時間	

8 障害の理解（3時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
① 障害の基礎的理解	1時間	(ア) 障害の概念とICF ・ICFの分類と医学的分類 ・ICFの考え方 (イ) 障害者福祉の基本的理念 ・ノーマライゼーションの概念 [演習内容] ICFについてグループワーク討議し理解を深める。
② 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎知識	1時間	(ウ) 身体障害 ・視覚障害 ・聴覚、平衡障害 ・音声、言語、咀嚼障害 ・肢体不自由 ・内部障害 (エ) 知的障害 (オ) 精神障害（高次脳機能障害・発達障害を含む） ・総合失調症、気分(感情障害)、依存症などの精神疾患 ・広汎性発達障害・学習障害・注意欠陥多動性障害 (カ) その他の心身の機能障害
③ 家族の心理、かかわり支援の理解	1時間	(キ) 家族への支援 ・障害の理解、障害の受容支援 ・介護負担の軽減
合計	3時間	

9 こころとからだのしくみと生活支援技術（80時間）			
基本知識の学習	項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
	① 介護の基本的な考え方	3時間	(ア) 理論に基づく介護 (ICFの視点に基づく生活支援、我流介護の排除) ・法的根拠に基づく介護
	② 介護に関するこころのしくみの基礎的理解	3時間	(イ) 学習と記憶の基礎知識、感情と意欲の基礎知識 ・自己概念と生きがい ・老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因 ・こころの持ち方が行動に与える影響 ・身体の状態がこころに与える影響
	③ 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	4時間	(ウ) 人体の各部の名称と動きに関する基礎知識 ・骨、関節、筋に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用 ・中枢神経系と体制神経に関する基礎知識 ・自律神経と内部器官に関する基礎知識 ・こころとからだを一体的に捉える ・利用者の様子の普段との違いに気づく視点
生活支援技術の講義・演習	④ 生活と家事	3時間	(エ) 家事と生活の理解, 家事援助に関する基礎的知識と生活支援 ・生活歴 ・ 自立支援 ・ 予防的な対応 ・主体性、能動性を引き出す ・ 多様な生活習慣 ・ 価値観 [演習] 自立支援が行えるようにどのような援助が必要か討議。
	⑤ 快適な住環境整備と介護	3時間	(オ) 快適な居住環境に関する基礎知識、高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法 ・家庭内に多い事故・バリアフリー・住宅改修・福祉用具貸与 [演習] 福祉用具の実体験。グループワーク。
	⑥ 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6時間	(カ) 整容に関する基礎知識、整容の支援技術 ・身体状況に合わせた衣服の選択、着脱 ・身支度 ・ 整容行動 ・ 洗面の意義、効果 [演習内容] 左片麻痺の衣類の着脱の技術演習を行い習得する。 口腔ケアの演習を行い習得する。
	⑦ 移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6時間	(キ) 移動・移乗に関する基礎知識、さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法、利用者、介助者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法、移動と社会参加の留意点と支援 ・利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法 ・利用者の自然な動きの活用 ・残存能力の活用・自立支援 ・ 重心、重力の動きの理解 ・ボディメカニクスの基本原理 ・移乗介助の具体的な方法（車いすへの移乗の具体的な方法、車いす間の移乗、全面介助での車いす・洋式トイレ間の移乗） ・移動介助（車いす・歩行器・杖等） ・ 褥瘡予防 [演習内容] 車いすへの移乗・移動、肢体不自由者の杖歩行、視覚障害者の歩行介助、ベッドでの体位交換の技術演習を行い習得する。

<p>⑧ 食事に関連したところ とからだのしくみと自立 に向けた介護</p>	<p>6時間</p>	<p>(ク) 食事に関する基礎知識、食事環境の整備、食事に関連した 用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽しい食 事を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、食事と 社会参加の留意点と支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食事をする意味 ・ 食事のケアに対する介護者の意識</li> <li>・ 低栄養の弊害 ・ 食事と姿勢 ・ 咀嚼・嚥下のメカニズム</li> <li>・ 空腹感 ・ 満腹感 ・ 好み</li> <li>・ 食事の環境整備 (時間、場所)</li> <li>・ 食事に関した福祉用具の活用と介助方法</li> <li>・ 口腔ケアの定義 ・ 誤嚥性肺炎の予防</li> </ul> <p>[演習内容] 食事介助の技術演習を行い習得する。</p>
<p>⑨ 入浴、清潔保持に関連 したところとからだの しくみと自立に向けた 介護</p>	<p>6時間</p>	<p>(ケ) 入浴、清潔保持に関連した基礎知識、さまざまな入浴用具 と整容用具の活用方法、楽しい入浴を阻害するところとからだの 要因の理解と支援方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 羞恥心や遠慮への配慮 ・ 体調の確認 ・ 全身清拭 (身体状 況の確認、室内環境の調整、使用物品の準備と使用方法、全身の 拭き方、身体の支え方)</li> <li>・ 目、鼻腔、耳、爪の清潔方法</li> <li>・ 陰部清浄 (仰臥状態での方法) ・ 足浴・手浴・洗髪</li> </ul> <p>[演習内容] 全身浴での入浴介助の技術演習を行い習得する。</p>
<p>⑩ 排泄に関連したところ とからだのしくみと自立 に向けた介護</p>	<p>6時間</p>	<p>(コ) 排泄に関する基礎知識、さまざまな排泄環境整備と排泄用 具の活用方法、爽快な排泄を阻害するところとからだの要因の理 解と支援方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 排泄とは ・ 身体面 (生理面) での意味・心理面での意味</li> <li>・ 社会的な意味 ・ プライド、羞恥心 ・ プライバシーの保護</li> <li>・ おむつは最後の手段/おむつ使用の弊害</li> <li>・ 排泄障害が日常生活上に及ぼす影響</li> <li>・ 排泄ケアを受けることで生じる心理的な負担、尊厳や生きる意 欲との関連</li> <li>・ 一部介助を要する利用者のトイレ介助の具体的な方法</li> <li>・ 便秘の予防 (水分の摂取量保持、食事内容の工夫/繊維質の食 物を多く取り入れる、腹部マッサージ)</li> </ul> <p>[演習内容] オムツ交換・ポータブルトイレでの排泄介助の技術演習を行い習 得する。</p>
<p>⑪ 睡眠に関連したところと からだのしくみと自立 に向けた介護</p>	<p>6時間</p>	<p>(サ) 睡眠に関する基礎知識、さまざまな睡眠環境と用具の活用 方法、快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援 方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 環境の整備 (温度や湿度、光、音、よく眠るための寝室)</li> <li>・ 安楽な姿勢・褥瘡予防</li> </ul> <p>[演習内容] ベッドメイキング・シーツ交換の技術演習を行い習得する。</p>

	⑫ 死にゆく人に関するところとからだのしくみと終末期介護	6時間	(シ) 終末期に関する基礎知識とところとからだのしくみ、生から死への過程、「死」に向き合うところの理解、苦痛の少ない死への支援 ・終末期ケアとは・高齢者の死に至る過程(高齢者の自然死(老衰)、癌死) ・臨終が近づいた時の兆候と介護 ・介護従事者の基本的態度 ・多職種間の情報共有の必要性 [演習内容] 尊厳ある死についてグループワークにて考え、ターミナルケアを学ぶ。
生活支援技術演習	⑬ 介護過程の基礎的理解	4時間	(ス) 介護過程の目的・意義・展開の方法 ・介護過程とチームアプローチ [演習内容] 個別支援計画を作成し介護過程の展開の理解を深める。
	⑭ 総合生活支援技術演習(技術評価・チェックリスト)	6時間	(事例による展開) (セ) 生活の各場面における介護について、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況に合わせた介護を提供する視点の習得を目指す ・事例の提示→ところとからだの力が発揮できない要因の分析→適切な支援技術の検討→支援技術演習→支援技術の課題(1事例1.5時間程度で上のサイクルを実施する) ・事例は高齢(認知症、片麻痺、座位保持不可) 2事例を実施
実習		12時間	次の組み合わせの中から受講者が選択して実施 ① 施設 12時間                      ② 施設 6時間/通所 6時間 ② 施設 6時間/訪問 6時間
	合計	80時間	
10 振り返り(4時間)			
	項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
	① 振り返り	2時間	・研修を通じて学んだこと ・今後継続して学ぶべきこと ・根拠に基づく介護についての要点
	② 就業への備えと研修修了後における継続的な研修	2時間	・継続的に学ぶべきこと ・研修終了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業者等における事例を紹介する。 [演習内容] 演習にてキャリアパスやOJTの理解を深める。
	合計	4時間	
全カリキュラム合計時間		135時間	

## 標準研修日程表

事業者名 医療法人光陽会

研修事業の名称 医療法人光陽会介護職員初任者研修通学講座

日程	時間	時間数	科目番号/項目番号/項目名	会場
第1日目	09:00~09:30	0.5	オリエンテーション	磯子中央病院 会議室5階
	09:30~10:30	2.0	1①多様なサービスと理解	
	10:40~11:40			
	12:40~13:40	2.0	1②介護職の仕事内容や働く現場の理解	
	13:50~14:50			
	15:30~17:30	2.0	1②介護職の仕事内容や働く現場の理解 (見学)	近隣老健等
第2日目	13:00~15:30	4.5	2①人権と尊厳を支える介護	磯子中央病院 会議室5階
	15:40~17:40			
第3日目	13:00~15:30	4.5	2②自立に向けた介護	磯子中央病院 会議室5階
	15:40~17:40			
第4日目	10:00~12:00	2.0	3①介護職の役割、専門性と多職種との連携	磯子中央病院 会議室5階
	13:00~14:00	1.0	3②介護職の職業倫理	
	14:15~16:15	2.0	3③介護職における安全の確保とリスクマネジメント	
	16:30~17:30	1.0	3④介護職の安全	
第5日目	09:00~10:30	3.0	4①介護保険制度	磯子中央病院 会議室5階
	10:40~12:10			
第6日目	09:00~10:00	3.0	4②医療との連携とリハビリテーション [医行為と介護] [訪問看護に関する部分] (講義1時間)	磯子中央病院 会議室5階
	10:10~11:10		4②医療との連携とリハビリテーション [リハビリテーション医療に関する部分] (講義1時間)	
	11:20~12:20		4②医療との連携とリハビリテーション [その他の部分] (講義1時間)	
	13:30~15:00	3.0	4③障害者自立支援制度およびその他制度	
	15:10~16:40			
第7日目	09:00~10:30	3.0	5①介護におけるコミュニケーション	磯子中央病院 会議室5階
	10:40~12:10			
	13:00~14:30	3.0	5②介護におけるチームのコミュニケーション	磯子中央病院 会議室5階
	14:40~16:10			

第 8 日目	09 : 00～10 : 30	3.0	6①老化に伴うところとからだの変化と日常	磯子中央病院 会議室 5 階
	10 : 40～12 : 10			
	13 : 00～14 : 30	3.0		
	14 : 40～16 : 10			
第 9 日目	9 : 00～10 : 00	1.0	7①認知症を取り巻く状況	磯子中央病院 会議室 5 階
	10 : 10～12 : 10	2.0	7②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	
	13 : 00～14 : 00	1.0	7③認知症に伴うところとからだの変化と日常生活	
	14 : 10～16 : 10	2.0	7④家族への支援	
第 10 日目	9 : 00～10 : 00	1.0	8①障害の基礎的理解	磯子中央病院 会議室 5 階
	10 : 10～11 : 10	1.0	8②障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎知識	
	11 : 20～12 : 20	1.0	8③家族の心理、かかわり支援の理解	
第 11 日目	09 : 00～10 : 30	3.0	9-①介護の基本的な考え方	磯子中央病院 会議室 5 階
	10 : 40～12 : 10			
第 12 日目	09 : 00～10 : 30	3.0	9-②介護に関するところのしくみの基礎的理解	磯子中央病院 会議室 5 階
	10 : 40～12 : 10			
	13 : 00～15 : 00	4.0		
	15 : 10～17 : 10			
第 13 日目	09 : 00～10 : 30	3.0	9-④生活と家事	磯子中央病院 会議室 5 階
	10 : 40～12 : 10			
	13 : 00～14 : 30	3.0		
	14 : 40～16 : 10			
第 14 日目	09 : 00～10 : 30	6.0	9-⑥整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	磯子中央病院 会議室 5 階
	10 : 40～12 : 10			
	13 : 00～15 : 00			
	15 : 10～16 : 10			
第 15 日目	09 : 00～10 : 30	6.0	9-⑦移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	磯子中央病院 会議室 5 階
	10 : 40～12 : 10			
	13 : 00～15 : 00			
	15 : 10～16 : 10			
第 16 日目	09 : 00～10 : 30	6.0	9-⑧食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	磯子中央病院 会議室 5 階
	10 : 40～12 : 10			
	13 : 00～15 : 00			
	15 : 10～16 : 10			
第 17 日目	09 : 00～10 : 30	6.0	9-⑨入浴に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	アットホーム 鎌倉山 地域交流スペース
	10 : 40～12 : 10			
	13 : 00～15 : 00			
	15 : 10～16 : 10			

第 18 日目	09 : 00～10 : 30	6.0	9-⑩排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	磯子中央病院 会議室 5 階
	10 : 40～12 : 10			
	13 : 00～15 : 00			
	15 : 10～16 : 10			
第 19 日目	09 : 00～10 : 30	6.0	9-⑪睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	磯子中央病院 会議室 5 階
	10 : 40～12 : 10			
	13 : 00～15 : 00			
	15 : 10～16 : 10			
第 20 日目	09 : 00～10 : 30	6.0	9-⑫死にゆく人に関したところとからだのしくみと終末期介護	磯子中央病院 会議室 5 階
	10 : 40～12 : 10			
	13 : 00～15 : 00			
	15 : 10～16 : 10			
第 21 日目	13 : 00～15 : 00	4.0	9-⑬介護過程の基礎的理解	磯子中央病院 会議室 5 階
	15 : 10～17 : 10			
第 22 日目	09 : 00～10 : 30	6.0	9-⑭総合生活支援技術演習	磯子中央病院 会議室 5 階
	10 : 40～12 : 10			
	13 : 00～14 : 30			
	14 : 40～16 : 10			
	16 : 20～17 : 20	1.0	実習前オリエンテーション	
第 23 日目	10 : 00～17 : 00	6.0	各施設にて実習	各実習施設
第 24 日目	10 : 00～17 : 00	6.0	各施設にて実習	各実習施設
第 25 日目	13 : 00～15 : 00	2.0	10①振り返り	磯子中央病院 会議室 5 階
	15 : 10～17 : 10	2.0	10②就業への備えと研修修了後における継続的な研修	
第 26 日目	11 : 00～12 : 00	1.0	修了評価	磯子中央病院 会議室 5 階
	13 : 00～14 : 00	1.0	修了式、修了証明書の交付	
		138.5		

\*オリエンテーション、修了評価試験も記載する。